

製品

——御社で製作している主力製品についてお聞かせください

古庄社長 医療関連車両、特装車、福祉車両などの開発・製作を手掛けています。

——新工場と旧工場が大きく変わった点は？

大型・中型用の塗装ブースが大きく変わりました。以前は塗装の際に塵、ホコリなどが着きやすく取り除くのに大変な能力と神経、時間を要していました。

新工場では、上部から吸気し、下に排気するシステムとなり、塵が塗装面に付着しないようになっています。高さを自由に調整出来るリフトもブース両側に設置し、高品質の塗装が効率よく出来る設備となりました。

レトロバス

お客様のニーズに合わせたオーダーメイドの路線バス



テストコースからは阿蘇外輪山が一望できる



オーダーメイドへのこだわりは、作業する従業員の真摯な姿からもうかがえる

その他にも漏水検査機、車両重量計など各種検査機も備えています。

——今後の抱負、御社のモットーなどをお聞かせください

新工場を設立したことで、例えば仕事が集中する時期に、どうしてもできなくてお断りしていた注文や、旧工場の立地の悪さのために生産効率が悪かったことなどが解決されました。これからはあらゆる要望に対応したいと考え、営業面で着々と進行中です。

また技術・生産面でもお客様のニーズに応えられるだけの力を養うことが大切で、若い従業員の教育にも力を注いでいます。

阿蘇に負けられない会社を目指し、九州での知名度を上げていきたいですね。

特殊医療救護車



ボディの片側が伸展することで室内スペースが大幅に拡張する「拡幅車」をベースに処置台、无影灯、医療機器類を搭載している

人

——従業員の特徴は？

どんなに忙しくても手を抜かない風潮が、従業員の中にあります。会社としてみれば、時に生産性、効率性が悪く儲からない仕事と考えますが、逆に当社では貴重な財産であると思っています。従業員の根底にある「カスタマイズ」に対する信念は、大切にしたいですね。

——従業員とのコミュニケーションなどはどうされていますか

月に一度、朝礼を行い、その時々テーマで、1時間ほど話しています。従業員全体に知っておいてほしいこと、共有しておきたいこ

となど、わかりやすく話すようにしています。

またお昼はお弁当持参で社員食堂に通っています。仕事やプライベートのことなど、皆でわいわい話をしながら食事をしています。

——従業員の高齢化に向けた対策は？

会社と現場が必要と考えた人には「マイスター」として定年後も働いてもらっています。これは当社特有の制度で、地元の商工会議所からも注目されています。若い従業員にもよい刺激になっています。

NET WORK

会員会社紹介 Vol.53

新工場完成で時代に添った生産体制を確立

東京都内から熊本空港まで約2時間。空港からタクシーで5分ほど、大津工業団地は阿蘇外輪山の麓にある。その工業団地の中に真新しいイズミ車体製作所の工場があった。

取材／(社)日本自動車車体工業会 事務局次長 瓜谷優一

株式会社 イズミ車体製作所

DATA

■本社

〒869-1222 熊本県菊池郡

大津町大字岩坂 3258-4

TEL 096-279-1733

FAX 096-279-1666

■資本金 4,300万円

■従業員 60名

■事業所規模

工場 約23,300㎡

■車体工業会加入

1997年(特種部会)



代表取締役
古庄 忠信

特徴
沿革

(株)イズミ車体製作所は、昨年12月に工場を阿蘇外輪山の麓にある工業団地に新設移転した。旧工場に比べるとその敷地面積は、実に4倍になるという。

今回の工場新設の目的は、旧工場が手狭になったこと他に「第3の特種車両」を生産したいという古庄社長の思いがある。

1931年の創業以来、福祉車両、医療関連車などをメインに業績を伸ばし、1951年に有限会社イズミ車体製作所を設立、1995年には株式会社へと組織を変更した。

1981年に福祉車両(リフトバス)の製造を開始、現在では多様化するお客様のニーズに対応したオーダーメイドで高品質な車両を

製作。お客様から高い信頼を得ている。

しかし車体業界は厳しい時代を迎えている。古庄社長は「時代は変化しますが、その時代に必要とされるカスタマイズ車両がなくなることはありません。時代に添った対応、製作ができれば社会の要求に応えられます」と語る。新工場の設立は、そうした時代の流れにも応えられる工場であり、高品質の車両を効率よく生産する体制も整った。

同社では、車両製造の他に車検業務も行っている。特装車の車検をするために必要となり、認証工場として認証を受け、地域のお客様に喜んでいただければと一般車両の車検も取り扱っている。

敷地の約4分の1には走行試験用のテストコースも備わっている。ここは年に1回、福祉関係の施設を招いての運動会のグラウンドとしても活用される。

「まごころ」で接することが大事と語る古庄社長。その思いはお客様だけでなく、従業員、地域へと注がれ、車づくりにも反映されている。

